

ゆるい空間の居心地

空間の重なりによって気配を感じる

指導教員 吉松秀樹教授 印

8AEB2215 本間 彩絵

1. 背景「ゆるさの居心地」

緊迫した時間を過ごすのではなく、ゆったりとした気分でも過ごしている時、私はゆるさを感じた。ゆるいとは、安心感や親しみを感じさせてくれるものであった。その中の、居心地の良い空間に興味を持った (Fig.1)。



2.1. 分析「専用と共用の関係」

既存建築においてゆるさを感じる空間には、どのような要素が隠れているのか (Fig.2)。専用空間と共用空間との関係で、空間のゆるさがつくられている。



Fig.2 既存建築における「空間の繋がり」

2.2. 分析「空間と人の関わり」

ゆるいと感じた空間は、他者との繋がり具合、離れ具合を自由に選択することができる。また、行動の決定権がその空間を使う人それぞれに存在する (Fig.3)。

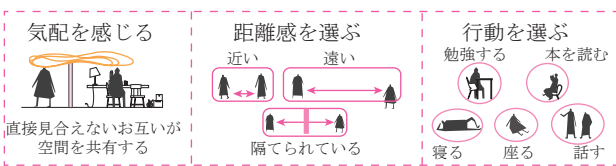
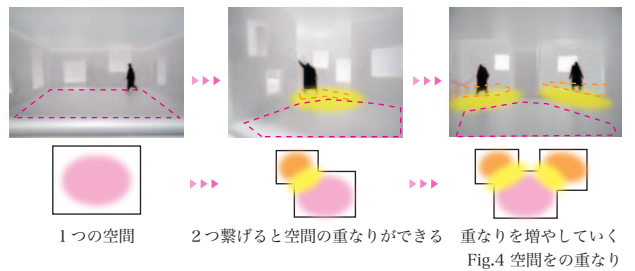


Fig.3 ゆるい空間の要素

4. 手法「空間の重なり」

分析から空間の重なりを考える。機能のある箱を繋げていくことで、専用する場と共用する場の重なりをつくる。その重なりによって、空間は分かれているようで繋がっている状態となる (Fig.4)。



5. 提案「気配を感じる住宅」

上記の手法を用いて、ゆるさのある住宅を設計する。空間は繋がっているようでもあり、隔てられているようでもあり、自分の空間（専用空間）が存在している。お互いの気配を感じることで家族全員で空間を共有する。共用する場と専用する場が折り重なることによって、居心地の良いゆるい空間ができるのではないかと (Fig.5.6.7)。



Fig.5 Site plan 1:300



Fig.6 Section 1:350

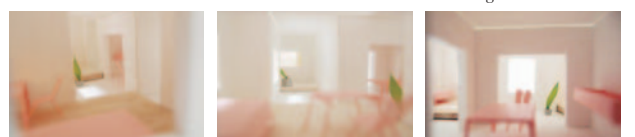


Fig.7 専用と共用繋がる場